

【59用語】

罹災（りさい）…災害をうけること、被災

焚出（たきだし）…洪水・地震など不時の場合に大勢の人に飯を炊いて出す

こと

隣保（りんぽ）…となり近所の人々、近隣の人々で組織された互助組合

糲（ほしい）…ほしいい、乾燥して貯えておく飯

路頭（ろとう）…道のほとり、道ばた

尔来（じらい）…爾来、それより後、そのとき以来

聖上（せいじょう）…天皇の尊称

感奮（かんぷん）…感じて奮い立つこと

誘掖（ゆうえき）…みちびき助けること、補佐

惰民（だみん）…怠惰な人、なまけ者

義捐（ぎえん）…慈善又は公益のため金品を寄付すること

糊口（ここう）…くちすぎ、よすぎ、生計

【59解説】

明治四十三年（一九一〇）九月十七日から二か月間にわたり、前橋市で開催された群馬県主催の一府十四県連合共進会（参加府県の物産陳列会）は、殖産興業の一つであったが、本県にとっては置県以来最大の行事となり、群馬県を全国に広くアピールする絶好の機会でもあった。

ところが、共進会開催を一か月後にひかえた同年八月、県下全域が大水害に見舞われた。この災害は、八月六日から十四日までの間に二つの台風が接近あるいは通過して豪雨が続き、十日から十一日にかけて大洪水が発生したことによる。この台風豪雨による被災地は東海地方から東日本全体に及んだが、なかでも被害が大きかった本県では、共進会の準備に追われるなかで、罹災者の救護にもあたった。本文書は翌四十四年一月、県南西部に位置する多野郡の罹災者への復旧支援活動やその生活状況を調査し、多野郡長が県に回答した時のものである。